

地域・在宅看護論実習Ⅱ (訪問看護) 評価表 学生・指導者・教員共用

氏名	学籍番号				
評価項目	評価				
	A	B	C	D	E
<b>1. 《対象理解》</b>					
1) 疾病や障害が療養者の身体面・心理面・社会面に及ぼす影響について説明することができる。					
2) 療養者を支える家族の介護状況や想いについて説明することができる。					
3) 療養者とその家族が利用している社会資源の活用状況について説明することができる。					
<b>2. 《看護実践》</b>					
1) 訪問時コミュニケーション技術を用いて、ライフステージや健康レベルに応じた関わりができる。					
2) 療養者とその家族の生活習慣・価値観を尊重した安全安楽な日常生活援助や医療処置管理の実際を見学・一部実施できる。					
3) 各家庭の状況に応じた感染予防対策を実施することができる。					
<b>3. 《チームの一員としての責任》</b>					
1) 在宅看護における訪問看護師の役割について説明・記述することができる。					
2) 多職種連携・協働の実際とその必要性について考察し記述することができる。					
3) 訪問看護ステーションの役割機能と活用の実際について説明・記述することができる。					
4) 在宅看護に関連する社会資源の種類や制度の実際について、法規と関連付けて説明・記述することができる。					
5) 訪問看護ステーションにおける緊急時の対応について説明・記述することができる。					
6) 必要な連絡・報告・相談ができる。					
7) 実習中の時間管理・健康管理ができる。					
<b>4. 《看護観を深める》</b>					
1) 対象者の自己決定の権利を尊重する姿勢を持ち、思いやりのある態度をとることができる。					
2) 守秘義務を遵守できる。					
3) 同行訪問を通して、在宅での療養生活を支える看護の必要性について記述することができる。					
<b>5. 《学習者としての基本的な態度》</b>					
1) 看護に対する問題意識をもち、主体的な問題解決や文献検索活動ができる。					
2) 積極的な質問と発言ができ、相手の意見を活かそうとする態度をとることができる。					
3) 批判的思考・論理的思考を意識した発言や記述ができる。					
《評価基準》 A : 非常に良い B : 良い C : 普通 D : あまり良くない E : 良くない					
実習期間 : 年 月 日 ~ 年 月 日					
(出席日数 : 日 欠席日数 : 日)					
実習指導者サイン 印					
教員サイン 印					